

第39回一志会例会 レポート 平成29年4月25日



ゲスト 武田 信二 氏

一志会は、「公の精神」のもとに積極的に社会的責任を果たそうとの想いを共有する大企業経営幹部の「コミュニティー」ですが、4月25日に第39回例会を開催しました。

今回は、株式会社東京放送ホールディングス(TBS)代表取締役社長の武田信二氏をゲストにお迎えして、「放送の未来像」について講話をいただきました。

武田氏は、京都大学経済学部卒業後、株式会社毎日新聞社に入社。記者としてご活躍。その後TBSの取締役、常務取締役、専務取締役を経て、2016年に代表取締役社長に就任されました。

武田氏は、長年にわたり、新聞・テレビというメディアの世界でご活躍されてこられた生粋のメディアマンで、一柳とは通産省担当記者時代からのお付き合いです。

武田氏は、冒頭、テレビ業界の歴史と市場について、ご自身の新聞記者時代のエピソードも交えながら、概要を話されました。最近ではスマートフォンの普及に伴い利便性が高まった結果、放送と通信の融合が進んできており、今後、どのように展開していくかが課題である、との認識を示されました。

また、日本のドラマを筆頭としたコンテンツは、たとえば放映されたテレビドラマが直ぐにネットにアップされるなど違法コンテンツが流通しているが、これは日本のコンテンツに対するニーズがある事の裏返しであり、その強みを活かした経営が求められると話されました。

さらに、映像技術の著しい革新について説明されるとともに、昨今の動画配信環境の進歩による権利ビジネスについて話されました。特にスポーツ放映に関して、多数の動画配信業者の台頭により放映権・配信権の高騰の中、どのように権利を確保しながら、いつでも・どこでも・どんなデバイスでも視聴できる環境を求めるユーザーに価値あるコンテンツを提供していくのかが、テレビ局、放送業界の抱える大きな課題であると語られました。

最後に、企業広報におけるトラブル初期対応のコツについて語られ、締め括られました。

武田氏は、放送業界に精通された興味深いお話や課題を語られつつも、メディアマンらしい小気味よく軽快な口調に、参加された会員は皆引き込まれ、「インターネットの普及は業界に関係なく更に社会変革をもたらすことが理解できた。」「情報が瞬時に拡散する世界になったからこそ、積極的に議論することが重要であることが理解できた。」等の意見が聞かれました。



武田氏 卓話風景



パナソニック 井戸氏  
会員スピーチ風景

続いて、会員スピーチのコーナーで、パナソニックの井戸役員から、「パナソニックの挑戦 ～BtoB ソリューションによる事業創出～」と題し、パナソニックの取り組まれている課題と今後の展開についてお話しいただきました。

その後の会員の交流時間帯では、今回初参加となる、濱千代・キューピー 取締役上席執行役員、日暮・エイピーピー・ジャパン 代表取締役社長、目黒・三井物産 執行役員から自己紹介を頂きました

続いて会員からの近況報告として、土本・東京証券取引所 顧問(前取締役常務執行役員)、神野・サーラコーポレーション 代表取締役社長、杉山・資生堂ジャパン 代表取締役執行役員社長、吉岡・アスクル 取締役、澤井・ダイキン工業 執行役員、外波山・カルビー 上級執行役員よりそれぞれホット

な報告をいただきました。

その後も、武田氏を囲んでの交流と、大変にぎやかな雰囲気が続き、東京証券取引所土本氏の音頭による三本締めにて中締めとなりました。



キューピー  
濱千代氏



エイピーピー・ジャパン  
日暮氏



三井物産  
目黒氏



東京証券取引所  
土本氏



サーラコーポレーション  
神野氏



資生堂ジャパン  
杉山氏



アスクル  
吉岡氏



ダイキン工業  
澤井氏



カルビー  
外波山氏



土本氏による中締め